

## 【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 電話3399-2196

## ジーンと感じるものがありました

副校長 安達 紀史

10月30日（土）、杉並公会堂にて1年生から3年生13クラスが一堂に会して音楽発表会を開催することができました。保護者の皆様には感染対策を第一に考え、1家庭1名で各学年入れ替え制にて参観していただくことをお願いしました。ご理解とご協力いただきましたことに対し、感謝申し上げます。

### 「音楽発表会スローガン～百花繚乱～」

不安要素はたくさんありました。緊急事態宣言下では、音楽の授業において歌唱指導が全く行えなかったり、クラスで合唱練習できた期間は9日間と短かったり…。本当に全校揃って実施できるのかも直前までわかりませんでした。

しかし、いざ本番、みんなの素晴らしい合唱はそれらをすべて吹き飛ばし、「歌声」という色とりどりの花々で杉並公会堂を満開にすることができました。

「百花繚乱」本当に美しく華やかな歌声でした。

### 「さすが、中瀬の3年生！」

今年の音楽発表会は、「さすが、中瀬の3年生！」の一言に尽きます。3年生の合唱に、私の胸はジーンと感じるものがありました。なぜ、3年生の合唱に胸を打たれたのか。それは、「3年生一人一人が合唱に向き合い、お互い認め合い、自ら考えて、みんなで花を咲かせた合唱」であると感じたからです。発表前の休憩時間に、自然とみんなで円陣組んでいました。結果発表の後に、涙している生徒もいました。勝つことよりも大切なものを得ることができたのだと思います。

3年生の合唱を体感した1・2年生が、来年度はどんな歌声の花をみんなで咲かせてくれるのか、今からとても楽しみに期待しています。

### 「理想の生徒像～向き合い、認め合い、考えて、輝け！～」

学校は、楽しいことばかりでなく大変なことも経験しながら変動の激しい社会の中で生きる力を身に付ける場です。

この音楽発表会で生徒たちは、自分達から様々な課題と向き合い、仲間と認め合い、自分がすべきことを考えて行動していました。まさに、中瀬生徒憲章の「理想の生徒像～向き合い、認め合い、考えて、輝け！～」そのものの姿でした。

これからも、生徒たちが自ら高め合い、一人一人が輝く中瀬中を目指していきます。



吹奏楽部の演奏に先生方が素敵なダンスで花を添えてくれました！



合唱部の「旅立ちの時」とっても素敵でした。後部部員募集いたします。歌好き集まれ！

音楽発表会は、次号以降に紹介していきます。まず、体育大会への思いの紹介の続きです。



<クラス選抜対抗リレー>

：思い返すと私は心のどこかで「私には関係ない」と思っていました。  
 でも、練習で負けるたびに走順を工夫した体育係、もめ事になった時に手を挙げてくれた選手、ボランティアや個人競技でみんな、体育大会のため頑張っていました。  
 ：私は後悔もありましたが、喜びも感じました。一番の恥は、運動ができない事ではなく、クラスの事を本気で考えられない事に気が付けたからです。：3C 堂前 咲來

：前日、リレー選抜で衝突があったものの、それだけ全員が成し遂げたいと感じていることが素直に凄いと感思った。：体育大会というワードは苦手だったが、中瀬中の伝統を継承し、後輩にバトンを繋ぐ意味を込めて終えられ、本当に良かった。 3C 長谷川 優

：全員リレーで一年も二年も、運動の得意、不得意に関係なく誰もが一生懸命走り、バトンをつなぐ。これを見たとき僕は体育大会をやる意味を理解できたと感じた。最後まで走り切っていた姿にも感動した。3A 田村 大翔

：一・二年生は、準備から片付けまで自主的に行動していた。そして一・二年生の応援は、三年生に力をくれ、輝くことができた。：横の繋がりが強くなった。ただでなく、縦の繋がりも、とても強くなった。 3D 大竹 夏都

：みんなが全力を尽くしたからこそ、とても楽しい体育大会になった。  
 ：順位はよくななくても、思い出に残る体育大会だった。 3A 岡 拓武



<全員リレー>

：去年までの二年連続優勝では見えなかったもの。「共に負ける」という本当の意味を理解できた気がする。  
 ：体育大会の魅力は、優勝を本気で目指したからこそ芽生えた、仲間たちとの絆や思い出にあるのだと知った。  
 ：一位という中瀬だけの称号より、先生も含め皆で頑張った励み合った思い出は消えない。：3D 丹野 真慈



<部活対抗リレー>

：家でゴロゴロしてお菓子食べてゲームした方が楽しいと思っていた。  
 でもそんな事とは楽しさの密度が違った。純粹な楽しさだった。本気で楽しかった。全力で取り組んで生まれる楽しさもいいなと思った。  
 「同じアホなら踊らにゃ損」大城先生の言葉を思い出した。 3D 大木 亮太

：小学校の時は、運動会は得意な人だけが輝ける場所だと思っていた。でも中瀬中でその考えは変わった。：学年種目やダンスは一人でやっているわけではない。得意でも不得意でも、皆で心一つにして成功させたという思いがあれば、誰もが主人公となり輝ける。体育大会をやる意味は、全校生徒にとっても、そういう貴重なチャンスだと気付いた。 3D 高野 真帆

：コロナ禍で体育大会をやり切った幸せ。後輩たちに「これが三年生だ」と示した充実感。三年生としての役目の一つを果たした達成感  
 ：多くの生徒の歓声と応援に包まれた、楽しく熱狂できる中瀬中学校の、史上最高峰の体育大会だった。 3B 宮丸 真依

：個人種目、全員リレー、ダンスの後、後輩たちが「すごかったです」「見ていました」など声をかけてくれて幸せだった。私も、色に関係なく、後輩たちを応援したり、声をかけた。楽しかった。 3B 和田 朋佳

：運動が苦手な人がミスをした時、その人を責める気持ちがあった。でも「団体種目の必勝法は、得意な人だけやって苦手な人は休めばいい。でも皆さんはそれをしないでしよう。」という校長先生の言葉を聞いて、クラスの皆で勝った時が一番嬉しいことを思い出した。そして心の底から皆を応援できた。この体育大会で、学校の団体種目がどういふものか分かった気がする。 3D 原 颯佑

：個人種目には出ませんでした。が、用具係になり常に集中できていました。：一年の時は他学年が走っているのを見ていたけれど、今年は自分のクラスだけでなく、皆を全力で応援することができました。「応援というものがわかってきた。 3B 川上 慈雨



<3年生 バディジャンプ>

：体育大会の動画を見て、涙が出てしまった。自分の子でなくても応援している保護者、ダンスが終わって涙している後輩、そしてこの瞬間しかできない自信に満ちた表情の、私達三年生。  
 あの場合にいた全員が主人公だと「最中」より「終わってから」強く感じた。 3D 手島 凜



<1500mを熱走>



<華麗なハードル走>

続いて下級生の思いです。

…今の1・2年生は、コロナの影響でムカデ競争も、午後の部の雰囲気も知らない。  
けれども、不自由な状況下での楽しみ方や、団結して精一杯取り組むことの楽しさは知っている。  
だから来年、再来年、その先も「中瀬の体育大会はこんなに楽しいんだぞ!」ということをし、これから来る後輩たちに伝えていって欲しいと思う。  
3D 窪田 倫

…中一の時、「転んでもあきらめずに立ち上がって進んでいく」3年生に憧れた。  
…そのムカデ競争はできなかったが「クラス全体で息を合わせて進んでいく」格好良い姿を後輩たちに見せることはできた。  
3B 高橋 詩菜

…僕は最初「運動が好き」な人が楽しめればよい」と思っていました。…しかし、個人種目に参加する人が多く、観戦しているときも白熱していました。3年生のダンスは、一人一人の本気さが伝わってきました。  
…「生徒一人一人が作る」の意味が少し分かった気がします。  
来年は得意不得意、関係なくみんなで作りたいと思います。  
1D 相川 拓己

…来年は個人種目に出場したいと思いました。新一年生と、どういう体育大会が作れるか楽しみです。  
1A 梁 宇晨



<1年学年種目>



<2年学年種目>

…ダンスは恥ずかしく、小振りでも最低限でいいと思っていました。しかし3年生は全員が全力で練習に取り組んでいた。練習の後の清々しい顔が印象に残った。自分も、あんな顔ができるのかなと思った。  
…ダンスに全力で練習してみると「恥ずかしい」ではなく「誇らしい」気持ちが出てきた。恥ずかしがっていた事が馬鹿らしく思えた。  
…3年生が僕たちの手本として『全力で格好良い先輩』の姿を見せてくれたからこそ、今回の体育大会は成功したと思う。  
…これからは僕たちが中瀬中学校の顔となる。今の3年生を上回るような格好良い先輩になって、中瀬中学校を引っ張っていききたい。…全力で取り組み全力で楽しんでる姿は格好良い。…2A 黒木 鳳雅

…長い時間座っているのが辛い。暑いのもさらに辛い。走ることやダンスも苦手。リレーや縄跳びでは皆の足を引っ張ると思うとそれも嫌。  
練習も当日も休みたかった。けど、皆が頑張っているんで休むわけにはいかないと考えた。  
当日…リレーは転んだけれど次の人にバトンを渡せてほっとした。縄跳びはタイミングが合わず頭に縄がぶつかったりしたが、時間いっぱい跳んだ。今回設営係を初めてやった。…やってみて自分も体育大会を支えていると思えた。  
競技する人も、応援する人も、委員や係の仕事をする人も、皆が頑張っているから「中瀬中の体育大会は熱い」。  
2B 石橋 胡太郎

全力で取り組み楽しんだ3年生の“中瀬中への思い”は『熱い体育大会』にのり、1・2年生に確かにバトンタッチされました。  
そして『応援』『挑戦』に『貢献』が体育大会の伝統に加わりました。  
この3つの言葉は、体育大会だけでなく、中瀬中生の取組の全てに通じるキーワードだと思います。

<個人種目1位の紹介> 長距離は女子 1000m、男子 1500m、◎新記録

	1年女子	1年男子	2年女子	2年男子	3年女子	3年男子
50m	前原 鈴	日比 柊介◎	川上 心愛◎	尾澤 樹◎ 種元 煌士◎	中尾 優花	星山 大貴
100m	犬江 芽生	清水 光輝◎	藤田 佳恵	菊池 健太	古川 菜々美	関口 瑛貴
長距離	高木 綾女◎	松野 泰知	古田 絹	國村 悠真		小山 流聖
50mH	高柳 真胡	小山 孔遠	笹村 ひなの	井口 道春		大木 亮太

# 実りの多い2学期を振り返って



<マナー講習>

## 【1】2年生キャリア学習

職場体験は実施できませんでしたが、今年度は社会保険労務士の皆様によるオリエンテーション(7/13)、キャリアコンサルタントの黒川優理様によるマナー講習(9/2)を経て、56か所の職場を訪問(9/14or15の午後)することができました。体験させていただいた事業所も結構ありました。

また、体育大会の翌日(10/13)に、体育館で各班ごとに「自分が働く上で大切にしたいこと」について、右のA～Fのキーワードに順位をつけ、勤労の意義を考えるワークショップを行いました。その際に地域で働いている24人の方と6人の保護者の方が、班に分かれて入って一緒に考えていただき、学習のまとめを行いました。

- A: 自分の趣味などのできる時間が持てる
- B: 高い給料が得られて、金持ちになる
- C: 社会の役に立つ
- D: 会社が倒産したり、リストラされたりすることがない
- E: 職場の人間関係がよく、働きやすい
- F: 自分に合ったやりがいのある仕事ができる

2A 秦 壮佑  
分かった。  
大きいということも  
が、やりがいの方が  
大変さがつきものだ  
ました。  
「仕事はやりがいと  
ことが大事だと学び  
ました。」

「自分の意見を否定されるのは悲しいことに共感できました。」  
「否定せず認める」  
「100%を求められていたら、その事と全く同じ事をやっていくだけ」  
「100%を求められていたら、120%でお返しする」  
という話を聞いて驚いた。 2C 山田 求



<美容室で体験実習>

## 【2】中瀬フェスタ(10/23)に合わせてフードドライブ実施

台風とコロナにより2年連続で中止となった『中瀬フェスタ』。今年度は、感染症拡大予防のため、対象を近隣小学校の児童・保護者100名に絞って実施ができました。



中瀬フェスタは学校主催の行事ではありませんが、コロナとい



<ダンボールに3箱以上集まりました>

うピンチをチャンスに、実行委員に手を挙げた中学生[委員長:宮下さん(3A)、副〃:大室さん(3A)、田村さん(3D)、他16名の2年生]が、体育館での出し物、校庭を使っ

たまた中瀬フェスタに合わせ、中瀬中のビオトープ委員会が生徒と地域に呼びかけ、玄関で**フードドライブ**を実施し、集まった食品は、杉並区のゴミ減量対策課の方を通して、こども食堂などに

配られました。協力ありがとうございました。

## 【3】乳児・保護者と3年生の交流学習(11/4,25:子ども・子育てプラザ下井草)

一昨年までの幼稚園訪問に代わって、学校支援本部『結』のバックアップを受け、保育学習を行いました。まず、子育てプラザの兵頭さんから、胎児が育っていくということや、生まれてからの発達と、赤ちゃんに触れ合う時の注意点などを事前に学習しました(10/22)。



当日は、クラスごとにプラザに行き、9組の親子と触れ合う中で、妊娠中のお話や子育ての苦労・喜びを聞くことができました。結の伊藤様からは「生徒たちが、赤ちゃんに向かって前のめりになっているのが印象的でした。」という声をいただきました。

3C 久保 賢太  
「子育てしてない夫婦かありえない(笑)」ってお母さんが言っていた。ちゃんと手伝おうと思う。

3C 吉田 小晏  
「自分もこの子のように赤ちゃんから成長してきたんだと思いきたら、泣いた。両親に感謝の気持ちでいっぱいになった。笑ったり、泣いたり赤ちゃんは素直に感情を表現している、幸せそうだった。」

<参加された母親の方の感想>。

- ・普段関りのない中学生と会えたことがとてもよかった。
- ・コロナでおじいちゃん、おばあちゃんにも抱いてもらっていなかったので、たくさんのお兄ちゃん、お姉ちゃんにだっこしてもらえてうれしかった。
- ・緊張した中学生のぎこちない抱き方にドキドキして怖かった。
- ・中学生をみて甘酸っぱい感じがした。男子が話さず、女子が仕切る様子に懐かしさを感じた
- ・質問を考えてきているのに質問ができない姿が中学生らしいとほほえましかった。

3C 古川 菜々美  
「育児は簡単なことばかりじゃないけど、すごく素敵な時間なんだなと思った。」  
「抱っこした時に泣かれ、どうすればいいかわからなかった。」  
「子育ては大変だし、難しいけど、それ以上にはうれいことがあると改めて思いました。」

3D 杉江 隼  
「育児は簡単なことばかりじゃないけど、すごく素敵な時間なんだなと思った。」  
「抱っこした時に泣かれ、どうすればいいかわからなかった。」  
「子育ては大変だし、難しいけど、それ以上にはうれいことがあると改めて思いました。」